

地区で、流域で、たくさんの市民が川づくりを考えています。

オープンハウス 流域24ヶ所で開催（5月）

コレカラボイスその1を配布。
「河川整備の課題」について説明し、
ご意見をいただきました。



流域24の会場で「河川整備の課題」についてのパネル展示をし、一部の会場では、説明や地図への書き込みや整備目標として大事だと思うことについてのアンケートなどを実施しました。

これらのご意見は、課題の追加や修正に活かすとともに、次のステップの「整備の目標と整備メニューの検討」の素材として反映させます。

【会場アンケートで集められた意見の例】

- 整備目標について
 - ・水害、洪水を第一に考えて欲しい。
 - ・昔のままの自然の姿を、あまり変えないで欲しい。
 - ・自然を残して公園にしたり、子どもが遊べるきれいな川に。
- 雨水貯留について
 - ・水害は流域全体の問題と考え、対策をたてる必要がある。
 - ・上流での森林の荒廃が気になる。雨水利用にも興味がある。
 - ・流域の、県をまたいだ協力や連携が必要。
 - ・家庭での対策は、行政が全体計画を立てて、その中で取り組めるなら参加したい。バラバラでは意味がない。
- 治水について
 - ・人の命と自然保護はどちらも大事だが、まずは人の命を優先し、堤防の改修を進めてもよいのでは？
 - ・環境を破壊し川をコンクリートでまっすぐにするのではなく、周囲の市街化を抑えるなど、流域全体で対応できないか？
 - ・治水と自然保護の両立を可能にする、工事手法を考えて。
- 堤防道路について
 - ・便利だが危険。渡れない。できれば自転車道路などにして。
 - ・市内の渋滞回避のためにもぜひ必要。強化して災害道路に。
 - ・便利だが危険。ガードレールをつけて歩行者道を確保して。

市民意見交換会

市民意見交換会は、毎回40名程度の参加者が、4つのテーマ別グループに分かれて提案を練ってきました。全体会の合間に、全体での川歩きや、グループ別の現地調査や学習会を行い、流域の情報を丹念に集め、議論を深めてきました。

そうして練り上げた提案の骨子が、以下のものです。

美しい渓谷ポイントだが、行きにくい／玉野溪谷



【5回以降の全体での活動】

- 5/9 第5回全体会／グループ別テーマの絞り込み
- 6/5 川歩き／中・下流
- 6/19 川歩き／上流
- 6/27 第6回全体会／情報を整理し提案をしぼる
- 9/4 第7回全体会／提案をさらに具体的に

【テーマ別グループでの取り組み】

- 生態系・水質・ゴミグループ
 - ・下流での、水質、ゴミ等の点検 (5/30)
 - ・上流での、生態系の情報収集、水質検査 (7/17)
- 原風景・歴史グループ
 - ・歴史情報の持ち寄りと整理作業 (6/6)
 - ・歴史環境、風景の現地調査 (8/8)
- 体験・憩いの場グループ
 - ・流域の「歩ける道」と「憩いの場」の調査 (分担)
 - ・自然と触れ合え、遊べる河原の現地調査 (7/23)
- 治水・防災グループ
 - ・流域全体で治水、防災を考える学習会.1 (6/13)
 - ・流域全体で治水、防災を考える学習会.2 (8/1)

●「私達のまとめた提案」(グループ提案のポイント)●

1. 多様な生態系を育む、ゴミのないきれいな川に



緑と池・湿地のネットワークを保全する。

河岸や流れの形態の多様性を確保したい。

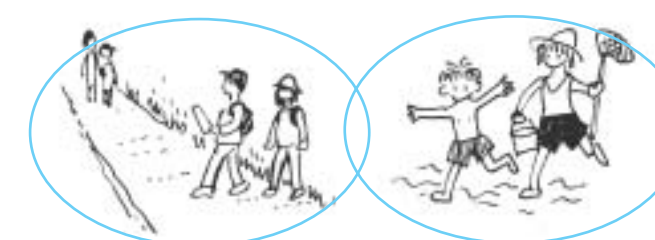
2. 川の上風景、歴史資源を保全活用する



史跡、寺神、街道等の周辺の歴史ポイントを活かす

見晴しのいい場所を憩いの場に整備する

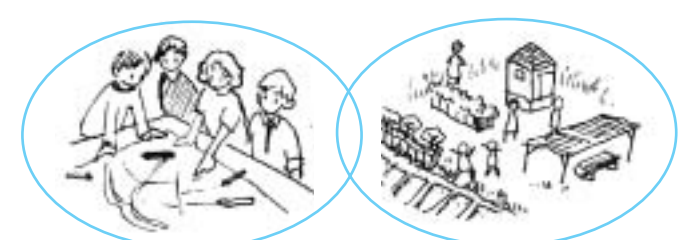
3. 豊かな川体験を伝え、憩いの場をつくる



川沿いの遊歩道、サイクリング道を確保する

アウトドアを楽しめる河原を、地域と協働でつくる

4. 流域全体、地域参加で、治水・防災を考えよう



地区主体でできる防災プログラムを開発する

水害時の拠点にもなる堤防上の小公園整備

車座集会 多治見(4/13)、北区(7/29)、西区(8/25)

「車座集会」は、地元のご希望に応じて庄内川河川事務所の職員が出向いて、地域的な問題やご希望などをていねいにお聞きするために開く集会です。

今年度も、すでに右記の3箇所で開催しました。



■多治見集会で出された意見(参加者7名)

- ・護岸等の工事で、出水で工事前の状態に戻った箇所がある。
- ・工事の際は、生態系への影響を配慮して行うべき。
- ・施工方法に問題があったと判断した工事箇所については、きちんと対処すべき。

■北区集会で出された意見(参加者9名)

- ・このあたりは、自然も風景も豊かなところなので、公園などの憩いの場ができるとよい。
- ・堤防が切れやすい箇所があり、不安。

■西区集会で出された意見(参加者29名)

- ・中流域のまわりの宅地開発、上流の山林の宅地化等により、地面に水が浸透する場所が減ってきていて、心配。
- ・庄内川からの越流に耐えられるように、新川を整備すべき。
- ・河川敷に樹木を増やして欲しい。

専門家による検討、流域自治体との話し合いも進んでいます

第6回 土岐川庄内川流域委員会(8/4)

第6回委員会では、土岐川庄内川コレカラプロジェクト全体の進行状況の確認に続き、流域委員会の自然環境ワーキンググループの報告がありました。「都市河川としては魚の生息状況から見るといい川である」「特に河口部と渓谷部の環境が重要。河川敷の植物は貧相」「支流に比べ水質が悪い」など、それぞれの専門分野からの意見が紹介されました。

後半では、「整備の課題(素案)」について事務所から説明があり、それについて意見や提案を出し合いました。



第2回 行政連絡会議(7/15)

第2回は、愛知県、岐阜県、および24の市町の担当者が集まり、土岐川庄内川コレカラプロジェクトの進み具合や「整備の課題(素案)」について情報交換を行いました。

また、庄内川河川事務所が実施した自治体へのアンケートの報告があり、自治体により取り組みにばらつきがあることを認識することができました。

【自治体アンケート抜粋】* 回答数33団体

- ・雨水流抑制、浸透施設促進のための補助制度あり(13) なし(20)
- ・大規模開発についての貯留施設設置等の計画、実績あり(8) なし(25)
- ・企業、住民の水質改善に対する、補助、助成金等あり(13) なし(20)
- ・浄化施設、下水道処理使節等の施設整備あり(14) なし(19)